

IGF2021事前イベントの振り返り

■概観

- セッションの公募手続き、審査手続き、は概ねうまくいった
- 6セッションとも内容的に興味をひくものであった
- 全体として議論の場とならなかった(時間不足? プレゼン中心的すぎ?)
- 採用セッション決定後、多様性を実装するため、一部ステークホルダーからの登壇依頼を活発化チームの特定のメンバーに任せる格好になった
- 採用された一部提案者との連絡が難航し、セッションの開催枠割振り(=プログラム全体像の確定)がイベントの2週間前となった
- 個々のサブチームの責任範囲が未分化であり、特に「抜け」には個人プレーでのケアが必要であった
- 最終段階での多面的な調整には、セントラルコーディネーター(いわゆる事務局?)が必須であるが、今回は山崎さんがその任を自主的に担ってくれた

=====

<以下、次回に向けた各論>

■開催者側の準備

- 「プログラム」と「セッション」という用語の使い方が統一されていないため、サブチーム間で誤解が生じた
 - 今回は各50分のコマを「セッション」と呼ぶことにしたが、今後のために合意しておく必要あり
- 提案者と長く連絡がつかないことがありプログラムの決定に支障が生じた
 - (何らかの事故やメールの不具合等に備えて)複数の連絡先を提案時にもらっておく必要あり
- (個人情報等支障のない範囲で)提案時に提案者だけでなく登壇予定者のメールアドレス等ももらっておくと、全登壇者への連絡が楽
 - 登壇調整が完了していない場合や不採用となった場合等も考えると、提案時に個人情報を貰うのは無理?
 - 採用が決定してから登壇者全員の連絡先をもらう?
- 採否評価のために使うセッション概要と、一般公開用プログラムの一部として書き込むセッション概要は、対象読者や目的が違うので内容が違うべきかもしれないが、今回は提案時のもの(少し長め)を公開用にも使った。
 - プログラムに書き込むセッション概要は今回の内容でよかったか?
 - 目的ごとに2つ書いてもらうのは提案者にとって負担か?
- 各登壇者の連絡先メールアドレスの収集は、プログラムサブチームとイベントチームが手分けして行った
 - サブチームの責任範囲を決めておくべき

- 62:
63: - プログラムサブチームにメーリングリストがなかったので、宛先を毎回並べ
64: てメールを送った
65:
66: →各サブチームにメーリングリストが最初からあった方がいい
67:
68: - 世話人を中心に作業を回したが、サブチーム全体の統制が十分でなかった
69:
70: →チェアを正式に指名するのがいい
71:
72: - 事務局的功能を山崎さんが中心に実施してくれたので、山崎さんが全貌を把
73: 握してくれていて、なんとか抜けなく進めることができた
74:
75: →山崎さんがいなかったらまともに開催できなかったであろうことを考え
76: ると、責任範囲と使用時間をコミットできる、ハブとなる専任スタッフ
77: が必要
78:
79:
80: ■イベント内容
81:
82: - 全てのテーマが聴衆の興味を引くものであった
83:
84: - 登壇者が多いセッションほど時間が足りない傾向があった
85:
86: →もともとプレゼンが長すぎる？
87: →登壇者数に応じて時間が長くする？
88: →参加者がずっと集中できる時間は60分が限界？
89:
90: - 今回は、日本語で行われるセッションのみを想定し、提案募集ページやメー
91: ルも日本語であり、セッションもすべて日本語で行われた
92:
93: →今後どうするか？
94:
95: - ほとんどのセッションが、プレゼンで時間を使ってしまい、議論時間が十分
96: とれなかった
97: - ほとんどのセッションが、提案書にあった時間配分通りに進まなかった
98: - 聴衆が十分に巻き込まれなかった
99: - 事前打合せが十分でなかったセッションがあったと思われる
100:
101: →提案者に事前打合せを依頼し、実施したかを確認する
102: →事務局やプログラムタスクサブチームメンバーが召集する
103:
104:
105: ■進行
106:
107: - JPNIC幹部、JAIPA幹部がオープニングとクロージングのリマークスを行う
108: 理由が、活発化チーム以外の聴衆に解らなかったかもしれない
109:
110: →プログラム案内に「このイベントにxxxという関わりを持つxxxさんから
111: リマークをいただく」と書き込む or
112: →司会の紹介において「このイベントにxxxという関わりを持つxxxさん」
113: と言う
114:
115:
116: ■セッションの初期採否判断と実施判断
117:
118: - 提案における最低条件を明示せず、どういう観点で評価するかだけを示して
119: 公募したが、マルチステークホルダーの意味等を理解している人からの提案
120: のみであったため特に問題はなかった。
121:
122: →今後は最低条件を書き込むのがよいか？

123: (例：ステークホルダー分野は3以上カバーすること)
124:
125: - 今回の提案募集文面は、活発化チーム外の提案者にも誤解なく正しく理解さ
126: れたようである。
127:
128: - 今回用いた評価観点は提案の品質を測る上で一定の役に立った
129:
130: - 各提案の内容充実にどれだけプログラムサブチームや活発化チームが関与し
131: た(特に政府登壇者の追加)
132:
133: →「イベント全体として」ステークホルダバランスをとる目的で依頼ベー
134: スで関与するのはOKであろうが、あまり具体的に各セッションの内容に
135: 踏み込むべきでない？
136:
137: - 提案のTBDが、最後の瞬間まで埋まらなかった。
138:
139: →提案時はどこまで許す？
140: 採択後はどこまで許す？ (例：イベント2週間前に決まらなければ採用
141: 取り消し)
142:
143: - 登壇者の入替をどこまで許容するか？
144:
145: →同じステークホルダ分野であれば入替自由？
146:
147: 以上